

# 経済概況

金融政策 声明 – 2024年10月

2024年10月9日(水)

「委員会は政策金利(OCR)を4.75%に引き下げ、金融政策を緩和することで合意した。」

## 理由:

「委員会は、年間の消費者物価上昇率が1.0%~3.0%のインフレ目標範囲内にあり、ミッドポイントの2.0%に収束していると評価する。」

## 改めて強調されたこと:

「委員会は、余剰生産能力がインフレ期待を鎮静化し、物価と賃金の変化が低インフレ環境に沿うようになったとの見方で一致した。」

## 引き下げを25bpと50bpのどちらにするか:

「委員会は、OCRの引き下げを25ベースポイントにした場合と50ベースポイントにした場合のメリットについて議論した。委員会に委任されているのは、低水準で安定したインフレ率を維持することであり、これと最も整合性があるのは、現時点において50ベースポイント削減することであると合意した。」

## 世界経済の見通しは期待薄:

「世界経済の成長は依然としてトレンドを下回っている。米国と中国の成長は鈍化すると見られ、地政学的緊張は引き続き世界経済活動の大きな逆風となっている。」

## 最後に...

「委員会は、今後のOCRは変遷する経済の評価に応じて変わるとの見解を確認した。」

## コメント:

驚くほどの沈黙が漂っています。

2024年は何度か見出しを踊らせた会合がありましたが、今回はむしろ静かに受け止められている様子です。中銀がOCRを50bp削減したのは事実ですが、概ね予想されていた通りであり、今回の声明はフォワード・ガイダンスを提供するものではなかったため、憶測の材料もなく、市場はほぼ無反応でした。

声明は既知のことを軽く述べたに過ぎません。経済活動が鈍化し、企業投資や個人消費は引き続き低調で、雇用情勢は軟化しており、経済指標からは成長鈍化が続いていることを示しています。

何か他にお伝えできることがあれば良いのですが、本当に何も無いと言わざるを得ません。

## マーケットへの影響:

フォワード・ガイダンスのない状態で市場はやや鈍りましたが、秩序は保たれています。NZドル売りは0.5%減、対米ドルで0.6100付近、対豪ドルでは0.9050で取引されました。NZドル/円は90.50に下落しました。

金利カーブの短期ゾーンは5bpの下落、中期ゾーンでは4bp、長期ゾーンは3bp下がりました。それでも、直近の安値を10~15bpほど上回っています。

RBNZは4.75%のOCRは依然として制限的であると指摘し、11月下旬にはさらに0.50%引き下げる用意をしています(2024年最後の会議にて、その後2025年2月中旬まで間隔が開くことになる)。市場は11月の0.50%引き下げに合わせた設定をほぼ済ませており、来年後半までにOCRが3.00%近くになると見込んでいます。

マーケットの視線は、来週水曜日に発表される9月期の消費者物価指数データに移るでしょう。こちらは、年間のヘッドライン・インフレ率がRBNZの目標とする1.00%~3.00%の範囲内に収まると予想されています。3年を経てようやくローラーコースターのような変動は終わりつつあるようです。

\* 日本語翻訳文と英語の原文に相違がある場合には、原文の記載事項を優先します。